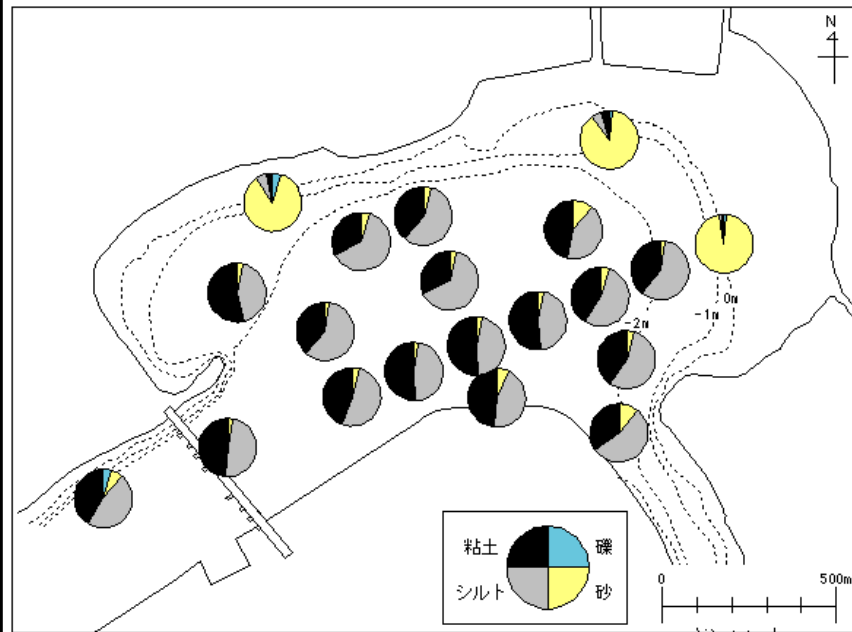
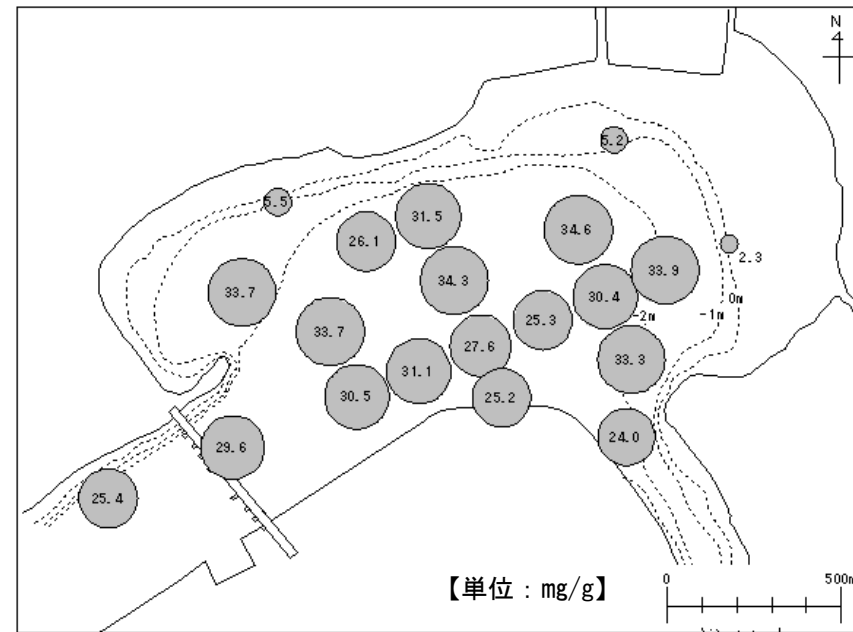


# 和白海域の水・底質改善の検討について

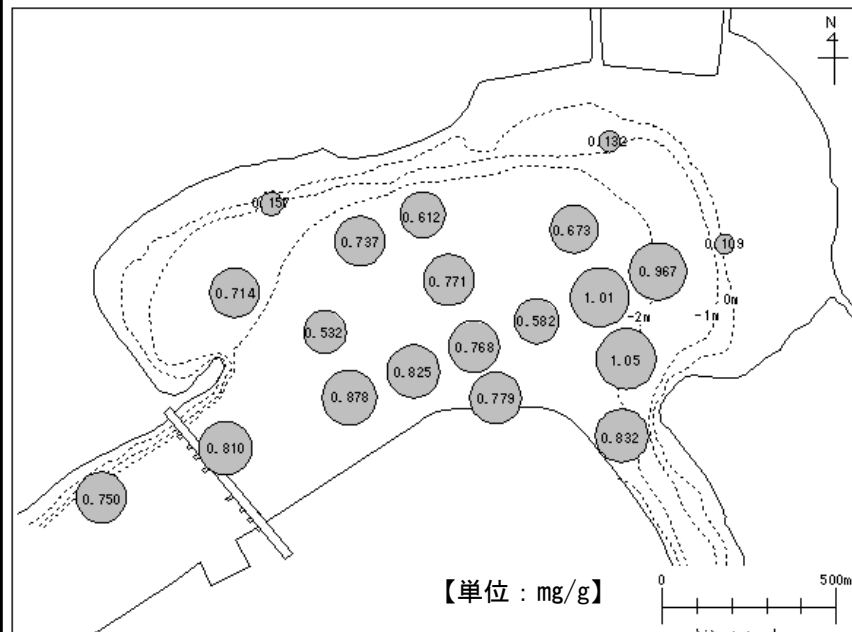
## 和白海域の底質の状況



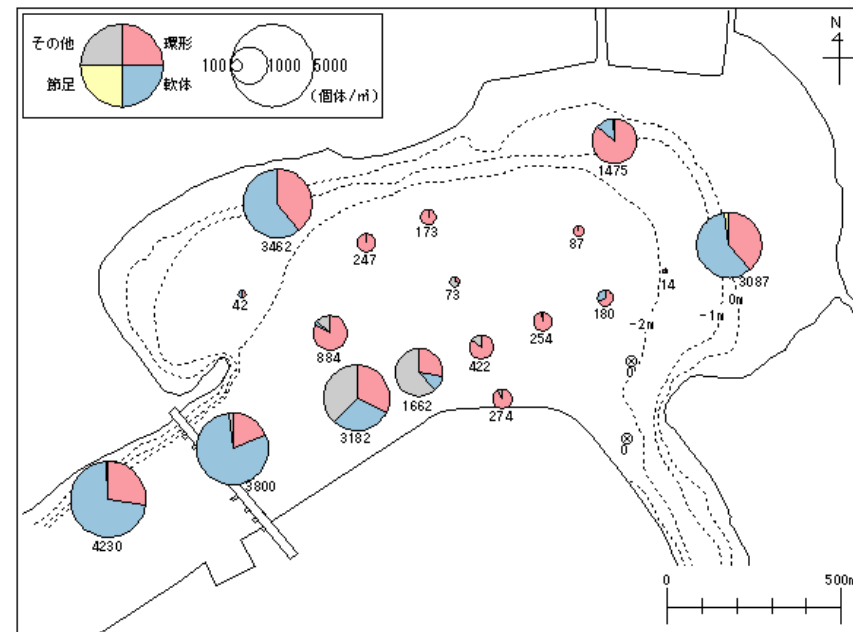
【粒度組成】



【COD】



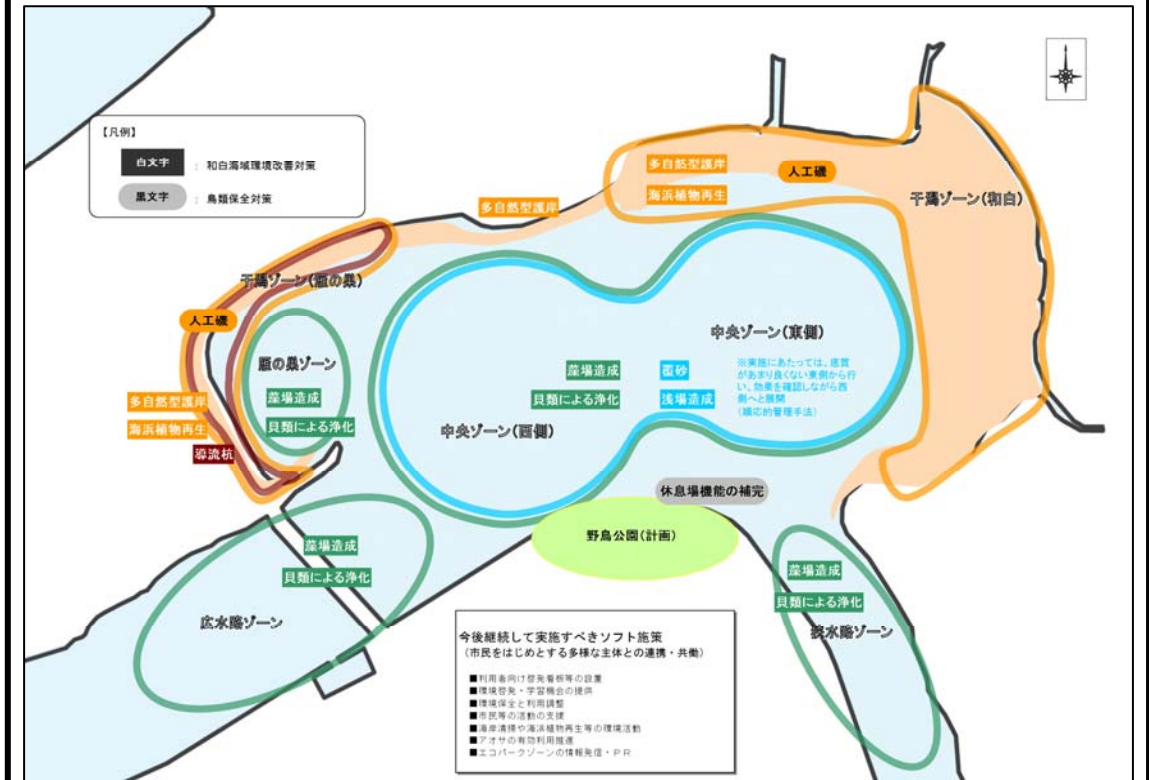
【硫化物】



【底生生物 (個体数)】

(平成18年8月)

## 過去の提言：エコパークゾーン環境保全創造計画 (H22.3)



- ◆和白干潟ゾーンでは貧酸素水塊の発生も見られることから、同ゾーン内の環境特性に応じた環境改善対策を講じていく必要がある。
- ◆覆砂は貧酸素水塊等の改善に最も有効な手法と考えられる。
- ◆実施にあたっては、底質があまりよくない東側から行い、効果を確認しながら、西側へと段階的に範囲を拡大していく方法が望ましい。
- ◆覆砂厚は、窒素やリンなどの栄養塩類の溶出抑制や施工地盤の硬さ、底生生物の生息条件などを考慮して、50 cm程度は必要である。
- ◆覆砂材については、水産用水基準を満たすことはもちろん、周辺の底質の粒度組成や将来の浮泥の堆積なども考慮して、粒度条件を設定していくことが重要であり、粘土・シルト分が10%以下であることが望ましい。
- ◆覆砂材として博多港内の浚渫土砂などを有効活用することや、濡筋となる部分を形成しながら覆砂し、掘削をすることなく作濡の効果を生み出すなど工夫を凝らしながら新たな効果を付加していくことも必要である。